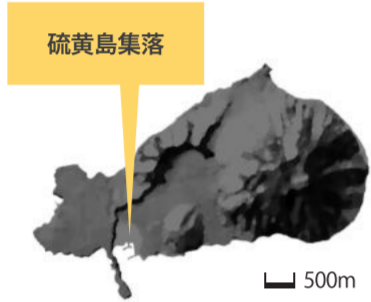




8



硫黄島地区四〇代男性

思い出話

「唄の速さは踊りにあわせませす。実はこれが難しく苦勞してます。踊りも鉦打ちも教える人で間や仕草が違ったり、型があるよう所で所々に遊びがあつて面白いです。」

村誌によれば奉納箇所や唄い手踊り手の数は減つたが、服装や踊り方は概ね同じようだ。現在は花笠をして鉦(かね)を打つ唄い手が一人。太鼓と矢旗を身につけた踊り子が一〇人ほどで奉納する。二日目、踊り手は潮水で身を清めて庄屋跡に集合する。まず庭で踊つて、鉦を先頭に鳥居前へ移り踊りを奉納する。二日目は同様に奉納した後、鉦を先頭に一列で太鼓を打ちつつ集落を巡り、海岸に出て「タタキ出し」をする。なお、祭りに登場するメンは表紙で紹介した通り。

硫黄島

八朔太鼓踊り

一五九八年、豊臣秀吉の朝鮮出兵にて、硫黄島の兵が藩主島津義弘を敵の包囲から救い武勲をたてた。その凱旋祝いとして八朔踊りが始まつたとされる。「八朔」とは八月朔日のこと。朔日は陰暦月の第一日。つまり旧暦八月一日を意味する。踊りは旧暦八月一日と二日に行う。

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1 <small>○</small> 旧 6/12
2 <small>○</small> 旧 6/13	3 <small>○</small> 旧 6/14	4 <small>○</small> 満月 旧 6/15	5 <small>○</small> 旧 6/16	6 <small>○</small> 旧 6/17	7 <small>○</small> 旧 6/18	8 <small>○</small> 旧 6/19
9 <small>○</small> 旧 6/20	10 <small>○</small> 山の日 旧 6/21	11 <small>○</small> 旧 6/22	12 <small>●</small> 下弦 旧 6/23	13 <small>●</small> 旧 6/24	14 <small>●</small> 旧 6/25	15 <small>●</small> 旧 6/26
16 <small>●</small> 旧 6/27	17 <small>●</small> 旧 6/28	18 <small>●</small> 旧 6/29	19 <small>●</small> 新月 旧 7/1	20 <small>●</small> 旧 7/2	21 <small>●</small> 旧 7/3	22 <small>●</small> 旧 7/4
23 <small>●</small> 旧 7/5	24 <small>●</small> 旧 7/6	25 <small>●</small> 旧 7/7	26 <small>●</small> 上弦 旧 7/8	27 <small>●</small> 旧 7/9	28 <small>○</small> 旧 7/10	29 <small>○</small> 旧 7/11
30 <small>○</small> 旧 7/12	31 <small>○</small> 旧 7/13					